

単位数	2	学科（型） 学年	建設工学科（建築型） 3年	教科書 副教材等	建築構造設計（実教出版）
学習目標		部材に作用する力と、それにより生じる力について学習する。また、部材の長さや形状等によって、力が変化することを理解し、安全で合理的な建築物をつくるのに必要な基礎的な知識と技術を身に付ける。			
学期	学習内容			学習のねらい	
1	〈2年次の復習〉 建築物に働く力 力の基本 反力 〈静定構造物の部材に生じる力〉 構造物に生じる力 力の種類			○2年次の基礎基本を再確認する。 ○反力の求め方を再確認する。 ○力の種類と作用の仕方を理解する。	
2	部材に生じる力の求め方 部材に生じる力の表し方 静定梁 単純梁 片持梁 静定ラーメン 片持梁系ラーメン 単純梁系ラーメン			○力の求め方を学習する。 ○力の表し方を学習する。 ○単純梁、片持梁の解き方を理解する。 ○底などの片持梁系ラーメンの解き方、橋などの単純梁系ラーメンの解き方を理解する。	
3	静定トラス 節点法・切断法 〈部材の性質と応力度〉 断面の性質 部材に生ずる応力度			○三角形を基本とするトラスの部材に生じる力の解き方を理解する。 ○部材内部に働く様々な力を理解し、応力度を計算する力を養う。 ○部材に生ずる各応力度の計算方法を理解する。	
価値の観点		内 容			
知識・技術		・ 建築構造設計に関する基礎的な知識および手順を身に付け、建築物の安全性に対して合理的に考えることができる。 ・ 建築物の安全性について、その意義や役割を理解している。			
思考・判断・表現		・ 構造設計に関する基礎・基本を大切に、技術者として適切に判断する能力を身に付けている。			
主体的に学習に取り組む態度		・ 建築物の構造計算に関心を持ち、その基礎的・基本的な知識と技術の習得に主体的に取り組む、技術者としての実践的な態度を身に付けようとしている。			
評価方法	・ 学習態度、学習意欲を評価する。 ・ 年間5回の定期考査の結果をもとに理解度、定着度を評価する。 ・ 演習により、理解度を確認し評価する。				
学 習 に 対 す る ア ド バ イ ス と 留 意 事 項					
○2年次の学習が基礎・基本となっている科目であり、十分復習をすることが大切です。 ○演習課題を解くことにより、自分自身の理解度を確認することにつながります。 ○予習・授業・復習を繰り返すことで、理解度を深めることができます。					